

富士見市環境基本計画市民策定委員会（第5回）議事録

- 【開催日時】 平成24年6月20日(水) 午前9時30分～11時40分
- 【開催場所】 市役所本庁舎2階市長公室
- 【出席者】 策定委員会委員
長谷川委員長、澤田副委員長、宮委員、川添委員、横山委員、
眞木委員、井上委員、古賀委員、齋木委員、加藤委員、矢野委員、
清水委員、羽石委員、関根委員（計14名）
事務局
新井環境課長、大橋副課長、佐々木主査
(株)環境総合研究所
吉田、寺山
- 【次第】 1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 素案について
4. その他
5. 閉会
- 【配布資料】 1. (事前配布) 環境基本計画素案(第3章まで)
2. (事前配布) 環境基本計画進捗表
3. (事前配布) 「富士見市の環境」公害対策の現況に相談内容例が
記載されている、騒音・振動・悪臭以外の例
4. (当日配布) 地域概況及び環境特性のグラフ・表(素案第2章)

【報告事項】

5月25日付で委員を辞退された砂川委員に替わり、策定委員として清水委員(農業関係者)を本日(6月20日)付けで委嘱したことを報告(事務局)。

【議事要旨】

1. 素案について

事務局より、素案及び事前資料2についての補足説明と一部修正事項を説明。

【素案の補足説明と修正事項】

- P.1 地震の正式名称、東北地方太平洋沖地震で確認された。
- P.6 構成図のうち、第2章5.課題の整理を追記したい。
第4章及び第5章は並列(同じ位置付け)である。
- P.7～ 第2章 富士見市の現況と課題、「1.地域概況」及び「2.環境特性」は表、グラフを抜いてコメントのみの掲載で作成。
- P.8 (4)産業の状況で、第一次産業が微増とあるが、農業生産法人が微増している意味である。
- P.12 B)ダイオキシン類の測定場所に「みずほ台小学校」とあるが、「市内各小学校」に修正したい。
- P.13 E)ごみの排出量の第1位とあるのは、ごみ減量化が最も進んでいることを示している。
- P.14 公共下水道の普及率「平成22年度93.0%」とあるが、最新は「平成23年度93.5%」としたい。
- P.15 H)相談内容について、事前資料3に示した。
- P.16～ アンケート調査は棒グラフから円グラフに修正した。
- P.19～ 事前資料2は、「4.第1期計画の進捗確認」及び「5.課題の整理」として整理されているものである。
- P.19 「基本的事項」とは、「第1章5.計画の対象(2)対象とする範囲」(P.5)に示すものに基づいた記述である。
- P.20 「第1期計画の進捗状況と課題」表中「保護者等への理解」とは、学校給食の献立について、天候を理由に献立が代わること等への理解の意味である。
「既存施設への太陽光発電システム導入」の既存施設とは、既存の公共施設である。
- P.25 「2.望ましい環境像」の環境像は、現行計画を引き継ぐことを考えた。こちらの市民策定委員会での意見も反映したい。
- P.26 「4.施策の体系」の体系図は、環境像、基本目標、基本方針、施策の方針と捉えている。
基本方針⑨施策の方針(2)の「パークアンドライド」は、富士見市の現状にそぐわないので「スマートムーブ」に修正したい。

【事前資料 2 の補足説明と修正事項】

- P.1～ 現行計画の取組内容についての実績と進捗状況・評価、課題等を掲載した。また、実績の達成度は1から5までの5段階評価で示した。
- P.2 指標 6 行目②防災無線を・・・「注意喚起を实」→「注意喚起を実施」
進捗状況 2 行目通報の際は・・・「必要に応じ」→「必要に応じ確認する」
実績 H20 年度～H23 年度 8 行目日本庁階段・ふじみ野出張所・・・「南畑第 2、第 0」→「南畑第 2、第 3」
- P.3 課題 13 行目今後、トマト、・・・「活用につい」→「活用について調査検討中」
- P.4 進捗状況 4 行目花と緑の育て人・・・「支援などを实」→「支援などを実施」
- P.5 進捗状況 3 行目環境施策推進市民会議・・・「年 2 回」→「年 2 回程度啓蒙
- P.6 活動を実施」

【審議内容】

◆第 1 章「計画の基本的事項」について

- 委員： P.1 地震と原発事故に関する表現で、放射能に関する表現を加えられないか。
P.2 国の環境基本計画は骨子案では第 3 次となっているが、第 4 次で間違いないか。
- 事務局： 第 4 次に修正する。
- 委員： 東京電力は電力不足の発表を取り下げたので、電力不足の表現を削除すべきと考える。
原子力発電事故について、「恵まれた」との表現は削除するべきである。反省を踏まえた表現として欲しい。
- 委員： 子供を持つ保護者等から内部被ばくの問題がある等、放射能に関する問題は大きいので、その表現を加えて欲しい。
- 委員： 原発に対する考えが公平な立場にないと思える表現は適切ではないと思う。客観的に述べるに留めた方がいいのではないか。
- 副委員長： 「自然の脅威と、福島第一原発事故に伴う電力不足・放射線問題は、わたしたちの生活を再認識させられる。」との表現でどうか。
- 委員： 本市の実勢・実態に不整合があってはいけない。市の計画である以上、個人的意見を加えるべきではないと考える。
- 委員： 再認識させられた出来事は、恵まれた生活と結びつくので、「恵まれた」の表現を残してもいいと考える。
- 委員長： 事務局により修正案を作成し、次回以降での審議としたい。
- 副委員長： P.4 事業者の役割にある「環境マネジメント」は注釈を加えた方がいいと考える。
- 委員： 富士見市環境施策推進市民会議の役割は、積極的な表現を加えることは考えられないか。
- 事務局： 市民・事業者・行政が協働して取り組みを実践する中で、協働のた

めの調整役として掲載した。

- 委員： 富士見市環境施策推進市民会議に参加していた者としては、知識と意欲を持って実践している。表現の修正を求めたい。
- 委員長： 事務局により、趣旨に添った表現に修正されるようお願いする。
- 委員： 注釈は資料編用語集ではなく、ページ末に加えるのか。ページ末に加えると、注釈が多くなるページが出てくると考えるがどうか。
- 委員： 中学生に理解できる表現を前提に、注釈はカッコ書きでもいいと考える。
- 副委員長： 注釈は欄外にするものと、カッコ書きにするものと、柔軟に対応することとでどうか。

◆第2章「富士見市の現況と課題」について

- 副委員長： 注釈が入らないと分からない部分がある。例えば事務局説明にあった第1次産業の微増傾向などがこれにあたる。
- 委員： 編集上の提案として、意見集約をし、複数案を提示する形が良いと考える。
- 副委員長： 文章表現が不足しているだけのためであるので、文章修正を行うだけでよいと考える。
- 委員長： 事務局により、委員の意見に対しての検討をお願いする。
- 委員： 現況等のグラフや表は付記するのか。
- 事務局： 表やグラフは資料編として掲載する予定であるが、表やグラフの必要性についてもご意見を伺いたい。
- 委員： コメントの文末に参考資料をリンクさせればいいのか。
- 委員： 中学生を対象とした場合には、別添資料を参照することが難しいと思う。現状では、中学生を対象にする表現は難しいと思われるので、審議の中でポイントとなる部分について表・グラフを挿入すればいいと考える。
- 副委員長： 子供への周知は概要版等により、別立てで考えられないか。
- 委員： 現行計画の周知が少ないことも考えられる。将来を担う子どもたちに対しての計画の周知を目指したいと思う。
- 委員長： 表・グラフの挿入について、事務局による検討、修正をお願いし、過不足について審議することとしたい。
- 委員： 本計画の目標が文章を読み込まないと出てこない。文章の読みやすさ、構成について再考できないか。また、イメージカラーが決まっているならば確認したい。
- 事務局： 現時点で、イメージカラーは確定していないが、2色刷の予定である。早い段階で、2色刷資料の提示を検討したい。
- 委員： 目標設定等の経緯・根拠は、簡単なものでいいのではないか。
- 委員長： 文章の修正・構成は、最終段階で検討することとしたい。

- 委員: P.10 各公園の来場者数や活用事例などが加筆できないか。P.14 富士見市対策基準の $0.23 \mu \text{ Sv/h}$ 以下とは、国の基準と同じだと記憶している。市で放射線量率測定器を貸し出しているが、返却時に測定値を報告している。これら測定値の掲載を考えられないか。
- 事務局: 各公園の来場者数や活用事項、基準の表現については確認する。報告を求めている放射線量率の測定値は、市で定めた基準に対する説明のために報告を求めているもので、データ収集を目的としたものではない。
- 委員: 測定条件等に統一性がないため、信頼性に欠けるのではないか。
- 委員: P.11 樹林・樹木は、街路樹も含まれるのか。
- 事務局: 保存樹木は、社寺林などの樹木・樹林であり、街路樹は含まれていない。
- 委員: P.12 動植物の注目種とは、どういった意味が含まれているのか。
- 事務局: 国及び県に掲載されている絶滅危惧種を取り扱うこととされている。ただし、富士見市の環境特性を鑑みて、レッドデータブック等掲載種以外のものも含めて注目種と表現している。(環境総合研究所)
- 委員: 生物多様性に照らして、注目種の表現は適切ではないと考える。ただの「種」とした方がいいのではないか。本計画の中では、偏重をきたす表現を避けるべきだと思う。
- 委員: 本市の自然環境の豊かさを認識できたのであれば、注目種としてもいいと思う。
- 委員: 委員の意見を踏まえると、レッドデータブックとの記載で十分伝わると思う。
- 委員長: 表現については、各委員でご検討いただくこととしたい。
- 委員: P.19「第1期」となっているので修正が必要ではないか。
- 事務局: 「第1次」に修正する。

◆第3章「計画の目標」について

- 委員: 環境像の経緯と決定された時期について確認したい。
- 委員長: 現行の基本計画の策定時に決定している。どんぐり山の湧き水保全が契機となって表現されたフレーズである。
- 委員: 10年前は30箇所以上の湧き水が確認されたはずである。現在は26箇所が減ってきている。宅地開発での湧き水減少が危惧される中で、本市の環境像として相応しいと考える。
- 委員: 湧き水の確認箇所は資料として提示されるのか。
- 委員長: 理解を容易にするのであれば提示を検討する。
- 委員: 湧き水は私有地が多い。本市の自然環境は個人資産が多いので、他力本願なところがある。そのことを踏まえて環境像を考える必

- 委員長： 要があると思うが。
私有地に多いことも踏まえ、湧水保全の必要性を含め、現行のフレームが考えられた。
- 副委員長： 河川に繋がっている湧き水はあるのか。
- 委員： 本市では、河川の源流はないはずである。保全として考えるならば、トラスト運動や基金設立などの取り組みを含めて考えていくべきだと思う。
- 委員： 現況の中で、地産地消の状況を掲載できないか。
- 事務局： データの有無について確認する。
- 委員： 環境に関する講演会・研修会などは行っているか。
- 事務局： 行っている。広報等で周知してはいるものの、一般市民の参加は少ないのが現状である。
- 委員： 参加者の殆んどは、環境施策推進市民会議のメンバーである。
- 副委員長： P.26 施策の方針は、課題の整理の中で踏襲しているものが多い。PDCA の考え方では、施策の達成は排除する物として考えている。
- 事務局： 完璧に達成できている施策は無いと考える。また、取り組み内容には、環境教育を推進する教職員の育成など、あまり現実的でない内容も見受けられる。検討願いたい。

2. その他

次回委員会の日程：平成24年7月4日(水)9時30分～ 市長公室

次々回委員会の日程：平成24年7月18日(水)9時30分～ 市長公室

以上